



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.16
文責 芹川博文
8月28日(金)

この1週間の子どもたちの姿 ～ 「外に出る時、勇気がいる暑さ」の中で ～



夏休み明けの8月25日は、「おはようございます」「お久しぶりです」の爽やかなあいさつで始まりました。中には、「ぼくの名前覚えてますか」と、ドキリとするような質問をする子も。夏休みの宿題持参もあり、途中で荷物を持ち直しながら来る子もいました(左の写真)。また、朝から久しぶりに友達とサッカーやドッジボール、一輪車などで遊ぶ姿の多いことに改めて驚き(中央の写真)、遊ぶことの大切さ、子どもたちのたくましさを感じました。中には、「朝からお母さんに怒られた」と、半泣きで来る子や、教室に入るのに勇気がいる子も。しかし、その後、その子たちも笑顔で授業を受けている様子を見て安心しました(右の写真)。徐々に生活リズムもつかんでほしいと願います。

ただ、ご承知の通り本当に暑く、朝から鼻血を出す子や、体調不良で早退する子もいた今週。こんなに暑い夏休み明けの学校は、私自身初めてでした。「外に出る時、勇気がいる暑さ」になりつつある昨今、これから数年先の気温と学校生活を想像すると、登下校を含めて教育活動の様々なところで変更と工夫が迫られると覚悟します。同時に、この暑さの加速度に歯止めをかける方法はないものかと思います。菊池溪谷あたりの別世界のような自然の涼しさに触れると、つくづくそう思います。

メランポジウムの花 と 目指す子どもの姿 ～ 「こぼれ種」の生命力と伸び合う姿から ～

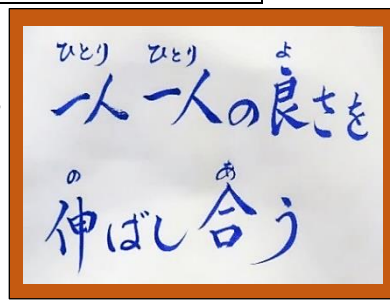
今年度、メランポジウムという花の名前を覚えました。隈府小学校の正門から入って、大きな楠の木とイチヨウの木の根元に咲きほこっている黄色い花です。実は、「こぼれ種」から咲きました。もともと予定してなかった花で、担当の先生と「どうします?」「せっかくだから残しましょうか」と会話を覚えています。その後、委員会の子どもたちや先生方、保護者の皆様のお世話のおかげで見事に咲きほこりました。「こぼれ種」の生命力と、予想もしなかった素敵な眺め。互いにグングン伸び合いながら全体の調和を保つ姿に見とれます。



*** ここから、夏休み明けのオンライン全校集会で子どもたちに話したことを紹介します ***

前期後半の学校生活では、学校教育目標の「自ら考える」を土台にして「なかまと高め合う」を、より意識すること、そして、「一人一人の良さを伸ばし合う」を大切にすることを伝えました。

人はみんな違います。違いがあるから支え合います。違いがあるから豊かになります。隣の人の良さが見つけれられる人になってほしいと願います。もしかしたら、その隣の人は自分では気づいていない良さを、見つけてあげられるかもしれません。お互いの良さを伸ばし合う学級、学年、学校にしてほしいと願います。



メランポジウムの花と、隈府小の目指す「なかまと高め合う」「一人一人の良さを伸ばし合う」姿が、つながりました。「ええ塩梅」の手をかけ、たくましく成長してほしいものです。